

カメルーン★どうでしょう

2024年2月
カメルーン通信 No.16
JICA 海外協力隊
出町 卓也

La Journée Nationale du Bilinguisme (Français)

National Day of Bilingualism (English)

Bonjour! カメルーンからでまちです。近頃マスクをつける人々の姿をよく見かけます。今年のカメルーンは砂ぼこりがひどく、また乾季で雨が降らないため空気が乾燥しています。そのため鼻水やくしゃみといった症状が起こりやすく、まるで花粉症のようです。かく言う私も大きく影響を受けており、なかなか辛い日々を過ごしています。

ところで、カメルーン人は写真のようなマスクのことを un masque (マスク: 辞書を引くとマスク) と呼ばず、un cache-nez (カシュネ: 辞書を引くとマフラー) と呼びます。風邪をひいているからでなく、砂ぼこりを防ぐためにつけている、という理由でそのように呼んでいるようです。辞書だけでは分からない言葉の使い方が興味深いですね。



◇英語とフランス語が公用語。

カメルーンは世界でも珍しい、英語とフランス語の2言語を公用語としている国です。同様の国ではカナダがあります。

カメルーン国内にある10州のうち、西側2州(右資料赤)が英語圏、他8州(右資料青)がフランス語圏になります。英語かフランス語か、どちらが主言語になるかは生まれた地域によって異なります。もう一方の言語は学校で学びます。

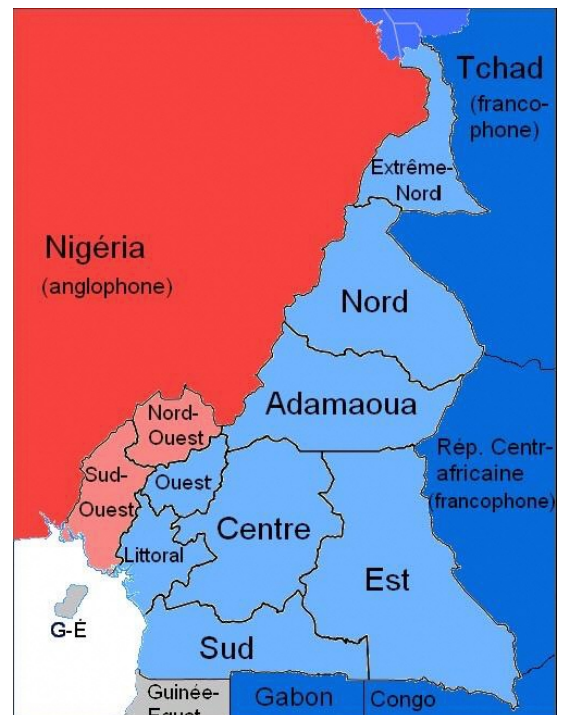
カメルーンの学校は、英語を主言語とする学校と、フランス語を主言語とする学校が、どの州にもあります。フランス語圏である、私の任地エゼカ市内では、フランス語メインの小学校がほとんどですが、英語メインの小学校も数校あり、保護者の意向で学校を選択することができます。カリキュラムや進級試験も、主言語によって異なります。



フランス語メインの小学校

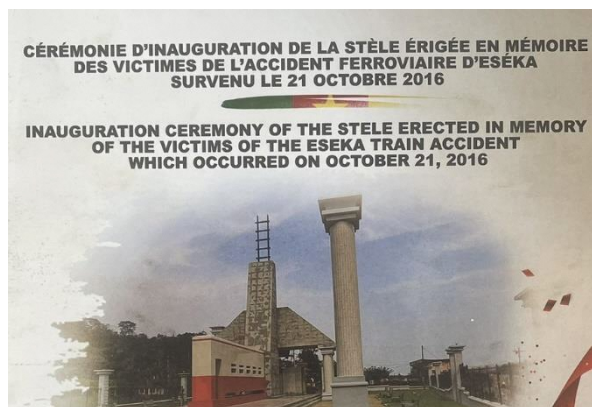


英語メインの小学校



出典: <https://ja.m.wikipedia.org/wiki/カメルーン>

◇2月第1金曜日は『バイリンガルデー』。



カメルーンはこのバイリンガル文化を大切にしています。TV やラジオでは英仏両方で話されていたり、新聞や行政が発行する資料には、英仏両方で表記されていたりします。この文化を祝うために、カメルーンでは、2月の第一金曜日を『バイリンガルデー』と定め、その週を通して、バイリンガルに関する発表を各校で行います。具体的には、歌を歌ったり、詩を朗読したり、寸劇をしたり、ダンスを踊ったり…と様々です。

この活動の面白い点として、全ての出し物に英語とフランス語が使われていることです。先日行われた祝典では、県や市の役員を招き、幼稚園児から教育実習生までが出演しました。ニュースキャスターのモノマネを行った高校生は、フランス語を読み上げた後に、英語でも読み上げていました。スマートフォンを紙で作って寸劇をした小学生は、フランス語メインの小学校でありながら、英語で発表を行いました。



とりわけ印象深かったのは、ある高校生が発表した『Different But the Same』です。英語とフランス語、それぞれの言語が分からない学生たちが、スマートフォンの翻訳アプリを用いてお互いにコミュニケーションをとり、解決していくという寸劇を通して、**言語や肌の色などの違いがあるのはみんな同じこと、だから分かり合える**、という内容でした。カメルーンには、英語やフランス語が入ってくる前から、もともと部族によって異なる現地語を話してきた歴史があります。同じ場所で生活する人として、違いを受け入れることが自然にできてしまうカメルーン人らしいなと感じ、そして日本からカメルーンにやってきて、今ここで生きている私にとっても、とても心に残る発表でした。

フランス語圏で生活するカメルーン人は、日常で使う言語がフランス語と現地語で十分なので、英語を使う機会はほとんどありません。一方で、あえて英語で会話してみたり、私のような外国人に英語で話しかけてみたりと、それぞれに工夫して英語も話す機会をもとうとしています。すでに頭の中で英語とフランス語が混同している私ですが、負けないように頑張ります。それでは、A bientôt !